

環境生命科学研究科専攻案内 (担当教員は平成28年10月1日現在)

3. 資源循環学専攻

講座名	教育研究分野名	教育研究分野の内容	授業科目名	担当教員
循環型社会形成学講座	廃棄物マネジメント学	将来にわたって持続的に資源・エネルギー・食料を循環利用できるように、廃棄物の発生抑制、有効利用、適正処理・処分に関する技術、施策、評価手法等を教育研究する。	廃棄物工学 環境政策論	藤原 健史 教授 松井 康弘 准教授
	環境安全学	循環型社会形成の観点から、水処理による汚染制御・安全確保、汚染物質による環境への負荷・リスク・容量設定に関して教育研究を行う。	水処理工学	永禮 英明 准教授
	環境計測制御学	水・大気環境の質的評価、廃棄物処理等を含む人為のプロセスに伴う質的・量的評価に関して、食料生産への影響や社会の持続的発展を視野に入れて、計測と制御に関する教育研究を行う。	水環境学 資源環境制御工学	川本 克也 教授 竹内 文章 准教授
	環境創成材料学	リサイクル性、環境負荷低減性等を考慮した建設材料及びコンクリート構造物の合理的で信頼性に富む設計手法についての教育研究を行う。	空間構造設計学 環境創成材料学	綾野 克紀 教授 藤井 隆史 准教授
	地圏環境評価学	地下水の挙動を定量的に評価することで、循環型社会の発展や食料生産に関わる水資源問題としての地下水環境保全と地下水汚染についての教育研究を行う。	地下水環境学	小松 満 准教授
	気圏環境評価学	大気と水圏及び気圏との相互作用とその応用について、河川湖沼海洋水、地下水や、土壌や岩石などの地球表層固体物質とその界面などにも着目した力学・物理化学を駆使した教育研究を行う。 温室効果ガス (GHG) 濃度の上昇が食料生産へ与える影響や社会の持続的発展へ向けた対策を視野に入れて、GHG測定技術の開発、大気・植生間及び大気・水圏間のGHG交換量の解析手法及び周辺技術の教育・研究を行う。	大気汚染防止工学 大気保全工学	☆河村 雄行 教授 岩田 徹 准教授
	循環型社会計画学	資源・エネルギー循環や食料問題を考慮した持続可能な循環型社会のあり方を考究するとともに、その形成を支援する計画ツールと環境政策に関する教育研究を行う。	環境経済評価論	阿部 宏史 教授 ※氏原 岳人 助教
物質エネルギー学講座	セラミックス材料学	省資源、省エネルギーに資する機能性セラミックス材料の開発、廃棄物から有価元素を回収し化学肥料などとして再利用する処理プロセスの開発など、グリーンイノベーションに関する教育研究を行う。	アモルファス材料科学 無機機能材料化学	難波 徳郎 教授 紅野 安彦 准教授
	無機機能材料化学	環境浄化及びクリーンエネルギーに関連する機能性材料並びに廃棄物の再資源化に関するプロセス技術についての教育研究を行う。	環境無機機能性材料工学 環境無機材料解析学	亀島 欣一 教授 西本 俊介 准教授
	有機機能材料学	グリーンイノベーションのための環境適応型有機機能材料を開発し、人工光合成、太陽電池、光触媒、あるいはナノ医療を可能とすることを旨とし、材料の分子設計及び合成法について光化学、ナノ炭素化学、有機典型元素化学、構造有機化学、そして、分子集合体化学などを駆使した多角的な教育研究を行う。	有機機能化学 先端有機化学	高口 豊 准教授 田嶋 智之 講師
	環境高分子材料学	高性能や高機能に加え、リサイクル性や環境負荷低減性等を考慮した高分子材料の分子設計法とその効率的合成法についての教育研究を行う。	環境調和高分子合成論 環境調和高分子設計論	木村 邦生 教授 山崎 慎一 准教授
	環境プロセス工学	環境工学の基礎となる物質が関与するプロセスの開発やその設計法及びグリーンケミストリーに基づく材料プロセッシングについての教育研究を行う。	環境プロセス工学 拡散分離工学	木村 幸敬 教授 島内 寿徳 准教授
	環境反応工学	環境調和型化学反応装置の設計・操作並びに持続可能なエネルギー資源確保のための触媒・固体収着剤の設計・開発に関する教育研究を行う。	環境化学反応操作論 エネルギー資源循環工学	加藤 嘉英 教授 ウッテン モハット [®] アズ [®] ハ 教授

☆印の教員は平成29年3月31日退職予定です。 ※印の教員は指導教員として志望できません。